山梨県立中央病院

医療連携だより

2013.5月 VOL-21

目次

1.院長あいさつ
2.各科部門紹介（通院加療がんセンター）

特集

リンパ浮腫外来のご案内

院長
土屋　幸治

院長あいさつ

平素より、医療連携につきまして、御理解と御協力をいただきまして誠にありがとうございます。

当院は山梨県の基幹病院として、各診療分野において高度専門的医療を行うと共に、救急医療、周産期医療、ガン医療に力を入れています。

救急医療では、救急救命センターが核となり、3次救急を担当するのみならず輪番制2次救急にも参加しています。平成24年4月からドクターヘリの運行が始まりました。ドクターカーの運用も含め、県下の救急医療の砦となっています。総合周産期母子医療センターでは、ハイリスク妊婦の管理や新生児の高度専門医療に、昼夜尽力しています。その成績は全国有数で、山梨県の母子医療は非常に高い水準を維持しています。

新しい薬の開発や放射線治療の進歩により、これからは、自宅にいながらあるいは仕事をしながら　ガン治療に専念する時代になります。平成25年1月には、通院ガン治療センターが開設され、患者さんの利便性が向上しました。また平成25年5月には、ゲノムセンターが開設される予定です。これにより、一部のガン診療では、患者さん一人ひとりに対応した診断、治療が可能になり、より精度の高い診療が期待できます。

当院の特徴を発揮し、効率の良い医療を行っていくために、当院では主に、急性期医療を担い、病状が安定したらその後は地元の医療機関で診ていただく、病状が変化したり急性期医療を必要とする患者さんがいたら紹介していただく、という医療機関の機能分化が必要です。病診連携、病病連携を強化し、患者さんが遅滞なく適切な医療が受けられるようにしていきたいと思っています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

連携登録医のご紹介コーナー

当院は「かかりつけ医」との連携を積極的に取り組んでおります。今回、医療情報コーナーに連携登録医のお名前を掲示しました。さらに、甲府市を皮切りに訪問を開始し個々の連携登録医の情報（施設名・住所・電話番号・診療項目・休診日・メッセージ・地図）を掲載したリーフレットを作成し、同コーナーに設置をはじめました。

親切、信頼、進歩　みんなで支える高度医療

地方独立行政法人山梨県立病院機構
山梨県立中央病院
YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL
地域連携センター
〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1　TEL.055-253-7111　FAX（直通）.055-253-2903

通院加療がんセンターの紹介

通院加療がんセンターでは、がん診療における専門的なスタッフによるチーム医療により、患者さんの全人的なサポートをおこない、最適な治療を目指します。

がんセンター統括部長
中込　博

H18年　山梨県癌診療連携拠点病院の指定を受けてから7年、河西前部長（現副院長）を中心に癌登録の整備、がん相談支援・情報の窓口の設置、そして難問であった外来化学療法室の整備などが進められてきました。

そしてH25年1月通院加療がんセンターがオープンし、センター内にゲノムセンターができるといったすばらしいがん医療の空間ができあがりました。さあ、これからという時期にがんセンター統括部長の任を引き継ぎ、はりきって、今後の当院がん医療の目標を設定しました。

1:がんプロフェッショナルを目指す医療者が集い学ぶがんセンターを作る。

2:次世代のがん医療を提供できるセンターになること。

日進月歩のがん医療（たとえば分子標的薬などの新しい薬剤やゲノム医療）を山梨県の患者さんに的確に提供することが拠点病院の使命と感じています。これだけでは医療者の目線での目標に映るかもしれません。患者さん中心のきめの細かいチーム医療を提供することもがんセンター機能の重要な柱です。さまざまな職種でがんプロフェッショナルを育成していくことがチーム医療の発展のために重要です。

目標1にその意義を込めています。がん医療専門の医師・看護師・薬剤師・相談員などが当院で育っていること書き添えて当院がんセンター部門の説明とさせていただきます。

通院加療センター入口（自動ドア）

受付・ロビー

ナースステーション

治療室

治療中の看護

患者さんに、安全な治療が行えるよう、毎朝、担当薬剤師とともに、薬剤の副作用やアレルギーの有無、薬剤変更指示の確認など、情報を共有するためのカンファレンスを実施しています。

外来治療を行う時間内に、少しでも患者さまの治療に伴う副作用や生活、精神的側面が把握でき、適切な情報が提供できるよう努めています。そのために、知識を有したうえで安全で適切な看護が提供できるよう、静脈穿刺の方法、血管外漏出の予防と対応、抗癌剤の薬効、投与方法、アレルギー症状を含む副作用、治療費などについて知識を得ながら対応しています。患者さまには「症状チェックシート」を用いて、ご自宅での症状を記載していただき、具体的な副作用の程度や生活状況の把握とその対応方法を患者さんと一緒に考え、副作用症状に適切に対応できるよう援助しています。

治療に伴う様々な問題に対して、医師、薬剤師、各外来看護師、がん相談センター、地域連携センターなど様々な部署と連携をとりながら患者さまを支え治療が継続できるよう関わっています。

がんセンターにおける薬剤部の役割

薬剤部では、患者さんが化学療法を受ける前日にお薬の準備をしています。また、お薬の量や吐き気予防のお薬などが適切であるかといった処方内容の確認をしており、必要に応じて医師に問い合わせをしています。

患者さんが化学療法を受ける当日は、薬剤部内の無菌室にて無菌的にお薬の調製を行っています。正しい投与量の薬剤が使用できるよう調製には細心の注意を払っています。

お薬が届くまでに時間がかかることもあると思いますが、正確なお薬の準備のためお時間を頂いていますのでご了承ください。

また、最近は一部の患者さんを対象にお薬の説明を始めました。投与スケジュールや副作用、その対策などをお話ししています。

無菌室（薬剤の調剤）の場面

■センター受付時間のご案内

平　日:午前8:30～17:00

休診日:土曜日・日曜日・祝日

年末年始（12月29日～1月3日）

※ただし、救急患者さんに関してはこの限りではありません。

■受診の流れ

診療科ブロック受付（1階）

↓（→ 中央採液室 →）

診療科外来　医師診察（1～2階）

↓

通院加療がんセンター（9階）

↓

【会計】

④番受付（1階）→⑤番会計（1階）

特集 リンパ浮腫外来のご案内

当院の形成外科外来では完全予約制でリンパ浮腫専門の治療を行っています。これまでは当院に受診歴のある患者さんを対象としていましたが、今年度より、院内外に関わらず受診が可能となりました。

対象は
①手術や放射線治療などによる続発性リンパ浮腫
②リンパ管の形成異常による先天性リンパ浮腫

【リンパ浮腫外来の実際】

治療法は
・複合的理学療法
・形成外科医によるリンパ管静脈吻合術

外来スタッフは１名の形成外科医と２名のリンパ浮腫療法士が治療に当たっています。基本的には複合的理学療法といって、①スキンケア②用手でのリンパ誘導マッサージ③弾性着衣による圧迫療法④運動療法などを組み合わせて患者さんにあった方法で非侵襲的に治療を行います。蜂窩織炎などの炎症を繰り返す患者さんには形成外科医によるリンパ管静脈吻合術なども行っています。

リンパ浮腫を改善することで、患者さんのQOL向上に向けて関わっていきますので、受診をご希望の方は、かかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診して下さい。外来は完全予約制となっていますので、初診予約センターに問い合わせて下さい。

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

① かかりつけの医院を受診
紹介状をもらってください

② 専用ダイヤルにお電話
以下にお電話ください
☎ 055-253-7900
9:00〜17:00　月〜金（祝祭日除く）

お電話前に準備してください
①紹介状
②電話診療予約申込書
③当院の診察券(お持ちの方は)

③ 受診当日
ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物
①紹介状
②電話診療予約申込書
③保険証　④当院の診察券
⑤受給者証
（老人医療、公費等該当する方）